

解答

①

傍線部にある疑問詞の「安」がポイントで、これを疑問とするか反語とするかの判断が求められる。疑問詞の「安」には、理由を問う「いづくんぞ」と、場所を問う「いづくにか」という2つの訓みがあるが、傍線部には送り仮名がないのでどちらかは分からない。また、疑問の場合は文末が連体形をとり、反語の場合は「んや」を付けるが、これも送り仮名がないので判断がつかない。

しかし、選択肢を見ると、②の「確かにあろうか」と④の「聞かせてください」は、反語ととって意識してもこのような解釈はできない。また、③は「安定感」と「安」の意味を取り違えている。よって、この3つは消去できる。

残るは①と⑤だが、ここは「其理安在」の文構造を押さえよう。

其理 安 在

(主語) (疑問詞) (述語)

語順を考えれば、「其理」が主語で、「在」は述語だ。ここに注目して改めて選択肢を見ると、①は「道理がくある」とこの文構造どおりに解釈しているのに対し、⑤は「理解され」と主語であるはずの「理」を述語としているうえに、「在」に対応する部分がない。よって、正解は①と判定できる。ちなみに、③は「理想的で」と述語、④は「その理由を」と客語(目的語)で解釈している、この点からも誤りと判定できる。

解釈しよう。柳成が「絵の具で色を施さずに、この絵をすばらしいものにしてみせましょう」と言ったのに対し、主人の再従長は「そんな道理がどこにあるのですか」と疑問を呈したのである。

本講の解説では、選択肢の絞り方をぜひ学んでほしい。意味だけ追うとどの選択肢も良いように思えて誤るが、**文構造に着目すればありえない選択肢は消去できる**。また、疑問か反語かの判断が求められるときは、いったん直訳してみて、選択肢のような解釈が可能かどうかを考えよう。

選択肢チエック

問

傍線部A「不_レ仮五色、其理_安在。」とはどのような意味か。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

其理 | 在
主語 | 述語

疑問 or 反語

① 手を加えるのに絵の具類を使わないなどという、そんな道理がいったいどこにあるというのですか。

② 青・黄・赤・白・黒の原色を用いないという、そういう理論も確かにあろうかと思えます。

③ 重要な五つの色をおろそかにしないのであれば、それこそが理想的で安定感をもたらすやり方です。

④ 色彩の効果にまったく頼らないと言うのなら、その理由を分かりやすく聞かせてください。

⑤ 五種類の彩色手法を借りずに描いて、どうしてその絵が理解されやすいものとなりましょうか。

「理」を主語としていないのでX

書き下し文

坐客の郭萱・柳成の二秀才、毎に氣を以て相軋ふ。柳忽かに図を晒、主人に謂ひて曰はく、「此の画体勢に巧みなるも、意趣に失す。今公の為に薄技を設け、五色を施さずして、其の精彩をして殊に勝れしめんと欲す、如何」と。再驚きて曰はく、「素より秀才の芸の此のごとくなるを知らず。然れども五色を仮さずとは、其の理安くにか在る」と。柳笑ひて曰はく、「我当に彼の画中に入りて之を治むべし」と。郭掌を撫ちて曰はく、「君三尺の童子を給かんと欲するか」と。

現代語訳

坐客である郭萱・柳成の二人の秀才は、ことあるごとに負けん気で互いに競い合っていた。柳成がふと画を見、主人（である再従）に言うには、「この画は構図は良いですが、趣きがございませぬ。ここはご主人様のために私めの拙い技を發揮いたしまして、絵の具で色をほどこさずに、画をことさらに素晴らしいものにしたと思います。いかがでしょう」と。再従が驚いて言うには、「今まで秀才（であるあなた）の技芸がそのようなものだと知りませんでした。ですが、色をほどこさない（で画を素晴らしいものにする）とは、その道理はどこにあるのですか」と。柳成が笑って言うには、「私めがこの画の中に入り込んで手直しいたしましょう」と。郭萱が手をたたいて言うには、「あなたは小さな子供をだまそうとでもしているのか」と。

重要語句

- 如何 疑問詞で「いかん」と訓む。本文では、文末に添えて「いかがですか」の意で用いられている。
- 乎 疑問・反語の終助詞。反語の場合には「〜んや」と訓むが、本文では送り仮名に「ん」がないので、「欲するか」と訓んで、疑問の意である。

解答

③

傍線部の冒頭に疑問詞の「何」があるが、文末は「(ぎ)ル」と送り仮名がされており、「ンヤ」とはなっていないので、**反語ではなく疑問である。**「何不ノ撃之」の部分だけを取り出して直訳すれば、「どうして撃たないのか」となる。よって、「撃たないことがあるか」と反語的に解釈している①と、「できようか」と可能の意味を加えてやはり反語的に解釈している④・⑤は消去できる。残る②・③を見ると、②は「此物」を「胃」とし、③は「磁器の破片」としている。そこで、傍線部の直前の内容を読み取って、「此物」が指すものを的確に押さえよう。ある客が柴窯の片磁を持ってきて、数百金で売りつけようと言っている。「これを胃にはめれば、戦陣にて火器を避けられる。しかし、それが本当かどうかを確かめる方法がない」とのこと。これを受けて、私は傍線部のように言ったのである。だとすれば、縄で吊るして銃で撃ち、火器を避けるか確かめるべき「此物」は当然、「胃」ではなく「磁器の破片」だ。よって、正解は③と判定できる。

現代文では、「傍線部中あるいはその直前に指示語がある場合、それが受ける内容を押さえる」というのは鉄則中の鉄則であるが、それは古文でも漢文でも変わらない。指示語が出てきたら指示内容を確認して読み進めよう。

選択肢チェック

問

傍線部A「何不下繩懸ニ此物」、以レ銃発ニ鉛丸ニ撃テ之の

解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- 「此物」が指すもので判断
- ① どうして胃を縄でつるし、銃弾で撃たないことがあるか。
 - ② どうして胃を縄でつるし、銃弾で撃たないのか。
 - ③ どうして磁器の破片を縄でつるし、銃弾で撃たないのか。
 - ④ どうして胃を縄でつるさずに、銃弾で撃つことができようか。
 - ⑤ どうして磁器の破片を縄でつるさずに、銃弾で撃つことができようか。

反語的に解釈しているので×

↓「ンヤ」という送り仮名ではないので疑問

書き下し文

客有り柴窯の片磁を携へ、数百金を索めて云ふ、「胃に嵌むれば、陣に臨んで以て火器を辟くべし。然れども確たるや否やを知るに由無し」と。余曰はく、「何ぞ繩もて此の物を懸け、銃を以て鉛丸を発して之を撃たざる。如し果たして火を辟くれば、必ず砕けず、価数百金なるも多しと為さず。如し砕ければ、則ち火を辟くるの説確たらず、理として価数百金を索むる能はざるなり」と。鬻ぐ者肯せずして曰はく、「公賞鑑に於て当行に非ず、殊に殺風景なり」と。急ぎ之を懐にして去る。後貴家に鬻ぎ、竟に百金を得たりと聞く。

現代語訳

ある来客が名品の柴窯の片磁を持参し、数百金の値で売りつけようとして言うには、「(これを)胃にはめておけば、戦陣に臨んで銃弾を避けることができます。ですが、それが確かなことかを知る方法はございません」と。それで私は言った。「どうしてこの破片を縄につるし、銃弾で撃つてみないのですか。もし本当に銃弾を避けたならば、戦陣でも絶対に砕けることはないですから、数百金の値でも高くはありません。もし砕けたならば、あなたの言う銃弾を避けるという説は確かでないですから、道理として数百金も値を求めることはできません」と。売人は承服しないで言った。「あなた様は磁器の鑑賞については専門家ではございませんね。野暮ったい人です」と。あたふたと破片を懐にしまい込んで去ってしまった。後に高貴な家に売りつけて、ついに百金を手に入れたとのことである。

重要語句

□ 如 文頭に置かれ、返読文字(ことし)ではない場合は、「もし」と訓み、仮定を表わす。本文中でも「(辟)クレバ」と順接仮定条件で送り仮名がされている。